

No. 47 pp. 664-687

28-VI-1986

# 寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI: Saitama Kontyū Danwakai

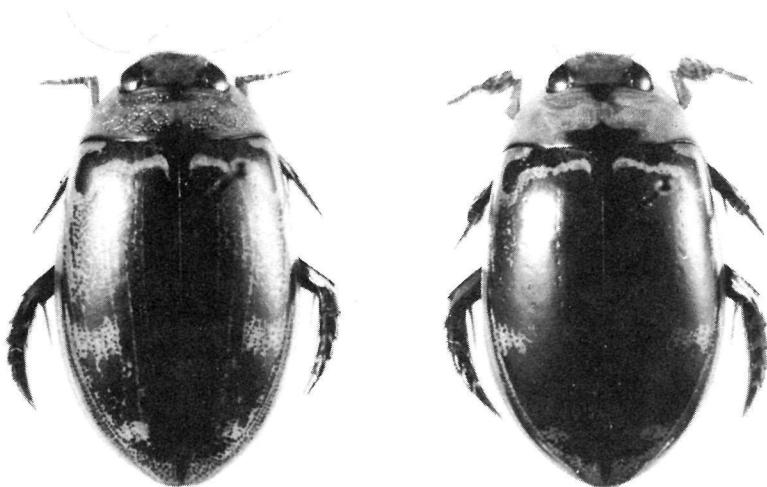


表 紙

オオイチモンジシマゲンゴロウ

1985-VIII-18 北本市石戸宿

採集;撮影共 築比地秀夫

## 埼玉県の脈翅類・I

牧林 功

先に“埼玉県産脈翅類ノート”という拙稿をあらわした（牧林、1984）が、1箇所種の同定の誤りがあったので、その訂正をかね、改めて埼玉県産脈翅類について述べることにする。

脈翅類は大変種が多いわりに、派手な種類が少ないため、昆虫愛好家からうとまれ、まだよくわかっていないことが多い。この稿では初心者にも同定しやすいように、絵解説のキーをつけた。これを機会に脈翅類にも目を向けていただき、採集記録を積み重ねていただこうと思う。また県内の記録を中心にまとめたが、手許にある県外の記録もあわせて記した。

今回はウスバカゲロウ科とツノトンボ科のみに限った。ウスバカゲロウ科の絵解説のキーは、日浦（1977）のものを若干改変した。また国内の分布図を各種についてつけたが、この記録は巻末の参考文献のみから拾ったもので、必ずしも十分とは言えない。しかし、分布傾向は読み取れると思う。

### ウスバカゲロウ科 MYRMELEONTIDAE

- 後翅R<sub>s</sub>脈派生位置より基部のR脈-M脈間に、2本以上の横脈が存在する
- ① ..... ウスバカゲロウ亜科 ②
- 後翅R<sub>s</sub>脈派生位置より基部のR脈-M脈間に、1本の横脈が存在する。
- ⑤ ..... マダラウスバカゲロウ亜科 ⑥

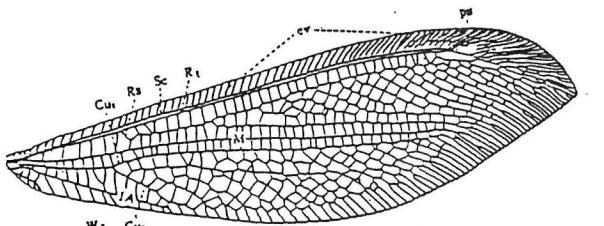
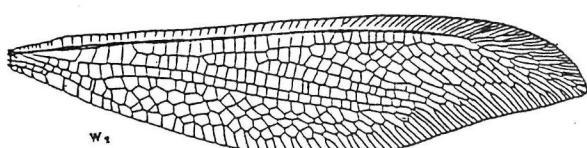


図1. ウスバカゲロウの脈相



cv；前縁小脈、ps；縁紋。

(石原、1965より)



横脈 1本

横脈 2本以上

図2. 後翅の比較

左：マダラウスバカゲロウ亜科、右：ウスバカゲロウ亜科

ウスバカゲロウ亜科 Myrmeleontinae

前翅の前縁小脈は単純 ..... ③

②

前翅の前縁小脈には、それをつなぐ小横脈があり、複雑な網目状になる。 ..... ⑤



図3. 前翅前縁域の比較

左; Hagenomyia, Myrmeleon, Grocus. 右; Epacanthacliss, Heoclisis

前翅の幅は広く、前翅 R<sub>s</sub> 脉の派生位置と Cu<sub>1</sub> 脉の分岐点とは、ほぼ同位置。

③ ..... Hagenomyia

前翅の幅はせまく、前翅 R<sub>s</sub> 脉の派生位置は Cu<sub>1</sub> 脉の分岐より外方にある。 ..... ④

図4. 前翅の比較

左; Hagenomyia 右; Myrmeleon, Grocus

ウスバカゲロウ属 Hagenomyia Banks, 1911

日本には1種のみを産する。

1) ウスバカゲロウ Hagenomyia micans (MacLachlan, 1875)

- |    |        |             |      |
|----|--------|-------------|------|
| 1♂ | 大宮市上小町 | 3-VII-1983  | 水室美芳 |
| 1♀ | 同上     | 28-VII-1983 | 同上   |
| 1♀ | 同上     | 1-IX-1983   | 同上   |
| 1♂ | 同上     | 11-IX-1983  | 同上   |

2♂	大井町砂川堀	25-VII-1983 市川和夫
2♂1♀	所沢市三ヶ島	19-VII-1983 牧林功
1♂	三峰山	27-VII-1983 碓井徹
1♀	三峰山	27-VII-1983 牧林功
1♂	大滝村川又	3-VIII-1984 氷室美芳

1♂ 新潟県塩沢町柄窪 2-VII-1982 氷室美芳

もっとも普通種。北は北海道から南は沖縄まで。国外では中国大陸から朝鮮半島、台湾に分布する日華区系の種。生息域も大宮市内の市街地から、三峰山、大滝村川又のような山地にいたるまで幅広い。しかし、どちらかというと人家、社祠、寺院の軒下というよう人に人間臭いところに生息するようで、その点人里昆虫の1種であろう。南部(1981)によって、寄居町からも記録されている。6月初旬から10月初旬にわたって出現するが、県内では7月下旬から9月中旬にかけて得られている。

- 「前翅Cu脈と1A脈に囲まれた三角形の部分及び1A脈と後縁の間の三角形の部分は二列の室が多い。♂後翅後縁基部にpilulaはない。」 Myrmeleon
- ④ 前翅Cu脈と1A脈に囲まれた三角形の部分には、二列の室は1~2個。1A脈と後縁の間の三角形部分は一列の室が多い。♂後翅後縁基部にpilulaがある。

左 ..... Grocus

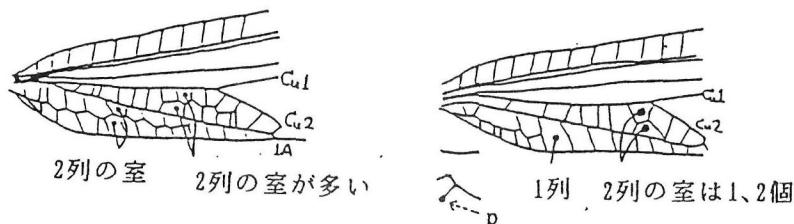


図5. 前翅内縁の比較及びGrocus♂後翅のpilula(p)

左; Myrmeleon 右; Grocus

#### コウスバカゲロウ属 Myrmeleon Linne, 1767

日本には1種のみ産する。

- 2) コウスバカゲロウ Myrmeleon formicarius Linne, 1767

1♀	所沢市三ヶ島	2-VII-1983 牧林功
1♀	大滝村柄本	19-VII-1983 同上

ヨーロッパからシベリアにいたる旧北区に広く分布し、国内では北海道から九州にいたる全土に産する。幼虫は海岸の砂丘、河原や湖畔の砂地に生息し、普通種といわれる。しかし幼虫の生息環境からわかるように、前種のような人里昆虫ではなく、人里周縁の地域を生息圏とするものようである。7月上旬から8月一杯まで成虫で出現する。

#### ニセコウスバカゲロウ属 *Grocus* Navas, 1925

我が国に2種(*G. soles* 及び *G. bore*)を産する。前報(牧林、1984)で、埼玉県から*G. soles*を産するように記したのは同定の誤りで、不明を深くお詫びしたい。同報での*Grocus* 属2種についての記述は全面的に抹消して欲しい。

#### 3) ニセコウスバカゲロウ *Grocus bore* Tjeder, 1941

1♂ 大滝村川又	6-VII-1985 市川和夫
1♂ 大滝村柄本	19-VII-1982 牧林功

---

1♀ 長野県軽井沢町追分 5-VII-1979 水室美芳

前種と同様にヨーロッパからシベリアにかけて分布し、国内では北海道から九州までの全土に産する。隣接地では千島列島、朝鮮半島、台湾に生息する。このように分布域は広いが、生息地は限られているようだ。いまのところ、県内では大滝村から記録されただけ。関東地方では他に、日光、鬼怒川、冰川(東京)などに記録がある。このことから判断し、本種はかなり山地性の種であるらしい。7月初旬から9月にかけて出現する。

⑦ 後翅Rs脈分岐点より基部に横脈は2~3本しかない。体や脚は細く、毛は少ない。  
..... Epacanthaclisis

⑤ 後翅Rs脈分岐点より基部に横脈が5本以上ある。体や脚は頑丈で、毛が多い。  
..... Heoclisis

(埼玉県では未記録)

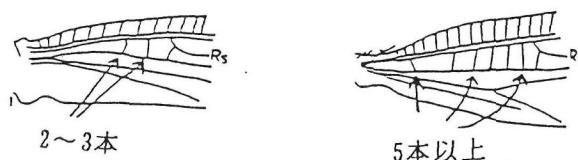


図6. 後翅基部の比較

左; Epacanthaclisis, 右; Heoclisis

モイワスバカゲロウ属 *Epacanthaclisis* Okamoto, 1910

日本に産する*E.moiwana*とカラコルムに産する*E.continentaris*の2種のみよりなる。

- 4) モイワスバカゲロウ *Epacanthaclisis moiwana* (Okamoto, 1905)

2♂ 大滝村川又 28-VII-1981 氷室美芳

1♀ 同上 20-VII-1982 同上

1♀ 大滝村入川 25-VII-1985 市川和夫

北海道、本州、四国に分布する。関東周辺では福島県吾妻山、磐梯山、栃木県塩原などに記録があり、上記大滝村の記録とあわせて、山地性の種のように考えられるが、関西では大阪市長居公園のような平地にも記録がある。7月下旬から10月中旬にかけて出現するようである。

マダラスバカゲロウ亜科 *Dendroleontinae*

前翅のRs脈分岐はCu脈の分岐より基方にある。 ······ Dendreon

⑥

前翅のRs脈分岐はCu脈の分岐より外方にある。 ······ ⑦

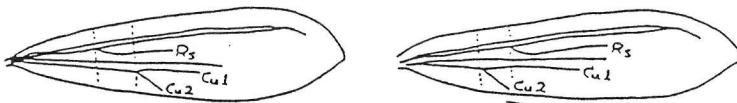


図7. 前翅R<sub>s</sub>脈派生位置の比較

左; Dendreon 右; Glenurooides, Distoleon

マダラスバカゲロウ属 *Dendreon* Brauer, 1866

*D.pupillaris*と*D.jezoensis*の2種が日本にいる。このうち*D.pupillaris*マダラスバカゲロウも埼玉県に分布すると思われるが、いまのところ未記録である。*D.pupillaris*と*D.jezoensis*の区別は翅の斑紋によって、比較的簡単に区別できる。

- 5) コマダラスバカゲロウ *Dendreon jezoensis* Okamoto, 1910

1♂ 大滝村川又 28-VII-1981 氷室美芳

1♂ 新潟県塩沢町柄窪 2-VII-1982 氷室美芳

埼玉県近隣地区では日光と氷川(東京)、鎌倉、小田原などに記録がある。北海道から九州までの日本全国と朝鮮半島、中国に分布する。幼虫は地衣類に覆われた岩の上、樹皮

上などに生息している。必ずしも山地性の種ではないと思われるが、山地の方に記録が片寄っている。7月初旬から9月中旬にかけて出現する。

- 触角は長く、頭部+胸部の長さより長い。胫節の距は第1跗節より短い。  
..... Glenuroides
- ⑦ 触角は短く、頭部+胸部の長さより短い。胫節の距は第1跗節より長い。  
..... Distoleon  
（埼玉県未記録）

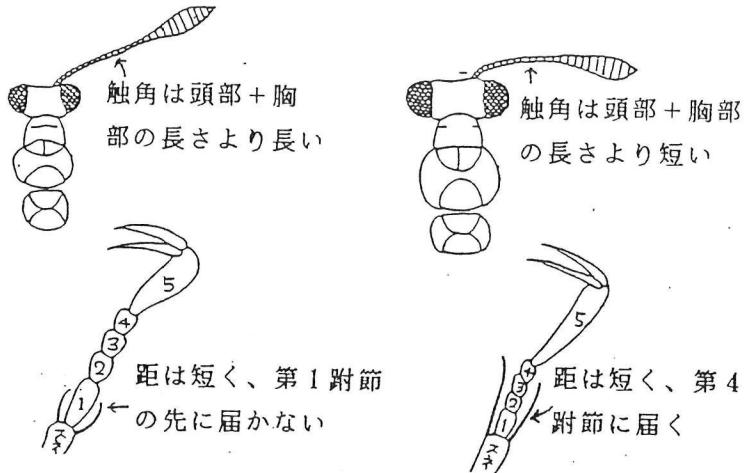


図8. 触角と胫節の距の比較

左: Glenuroides 右: Distoleon

#### ホシウスバカゲロウ属 Glenuroides Okamoto, 1910

日本産は *G. japonicus* のみ。

- 6) ホシウスバカゲロウ *Glenuroides japonicus* (MacLachlan, 1867)

1♂ 毛呂山町岩中 7-VII-1984 玉木長寿

1♂ 三峰山 27-VII-1984 水室美芳

1♂ 1♀ 神奈川県藤野町 14-VII-1985 牧林功

北海道南半から九州までの日本全土と台湾に分布する。大木の根際や木陰など腐植質に富む場所に住むという。やはり丘陵から山地にかけて分布する種であるらしい。6月下旬から9月中旬にかけて出現する。

## ツノトンボ科 ASCALAPHIDAE

- 「 複眼は上下に2分割される。 . . . . . Schizophthalminae  
 ① 「 複眼は上下に2分割されず単純。 . . . . . Holophthalminae

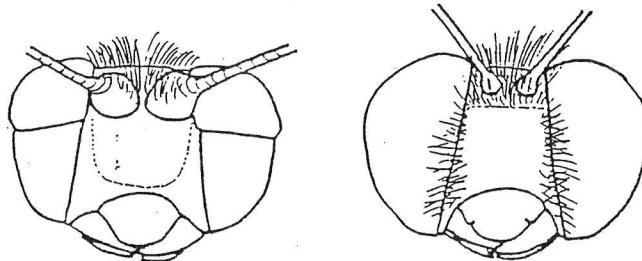


図9. 頭部の比較

左；ツノトンボ亞科、右；オオツノトンボ亞科

## オオツノトンボ亞科 Holophthalminae

この亞科は *Protidricerus* 属のみが日本に産する。

オオツノトンボ属 *Protidricerus* Weele, 1908

日本には1種産する。

- 1) オオツノトンボ *Protidricerus japonicus* (MacLachlan, 1891)

前報(牧林、1984)に示した比企郡物見山、所沢市三ヶ島の両地の記録からふえていない。  
県外だが下記標本を得ている。

2♀ 神奈川県藤野町 14-VII-1985 牧林功

本州、四国、九州に分布し、6月下旬から8月下旬にかけて得られているようだが、南関東では8月には姿を消すようだ。

## ツノトンボ亞科 Schizophthalminae Weele

♂は臭い匂いを分泌する。

- 「 翅は短く、後翅は黄色、褐色、黒色などで彩色される。 . . . . . Ascalaphus

②

- 「 翅は長く、後翅に派手な斑紋を持たない。 . . . . . Hybris

キバネツノトンボ属 *Ascalaphus* Fabricius, 1775

日本産1種のみ。

- 2) キバネツノトンボ *Ascalaphus ramburi* MacLachlan, 1875

1♀ 熊谷市大麻生

27-V-1984 市川和夫

1♂ 山中湖畔(山梨県) 8-VI-1983 岸一弘

1♂ 赤沢林道(群馬県) 18-V-1972 氷室美芳

本州、九州に分布する。出現期は4月下旬から6月下旬まで。乾燥した草原に生息し、飛翔は前進と定位飛翔(ホバリング)を繰り返す。その動きはアニメーション的で面白い。寺山(1982)によっても熊谷市で記録されている。

ツノトンボ属 *Hybris* Lefebvre, 1842

日本産は1種のみ。

3) ツノトンボ *Hybris subjacens* (Walker, 1853)

1♂ 北本市石戸宿 17-VII-1985 牧林功

本州、四国、九州から朝鮮半島、中国にかけて分布し、台湾にも生息する。5月中旬から9月下旬まで見られるらしいが、筆者の経験では8月に、前種に置き換わるように出現するようと思われる。乾いたススキ草原で得られる。

図10.

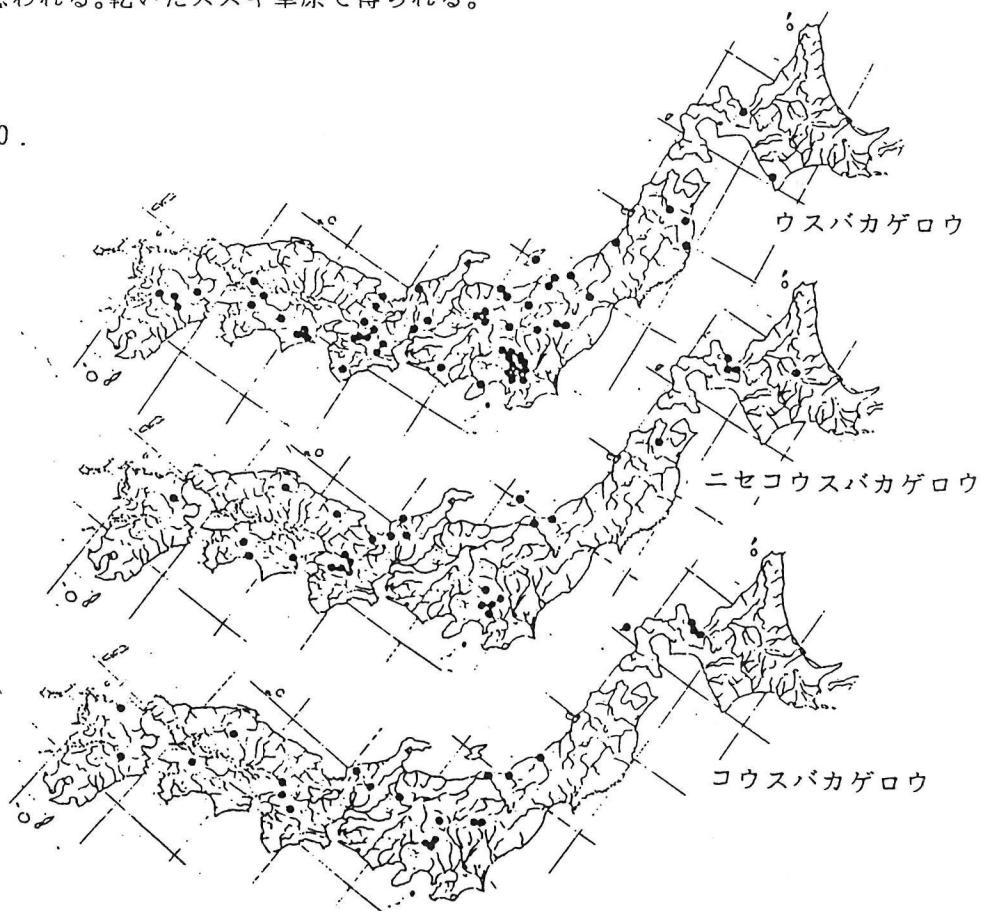


図11.

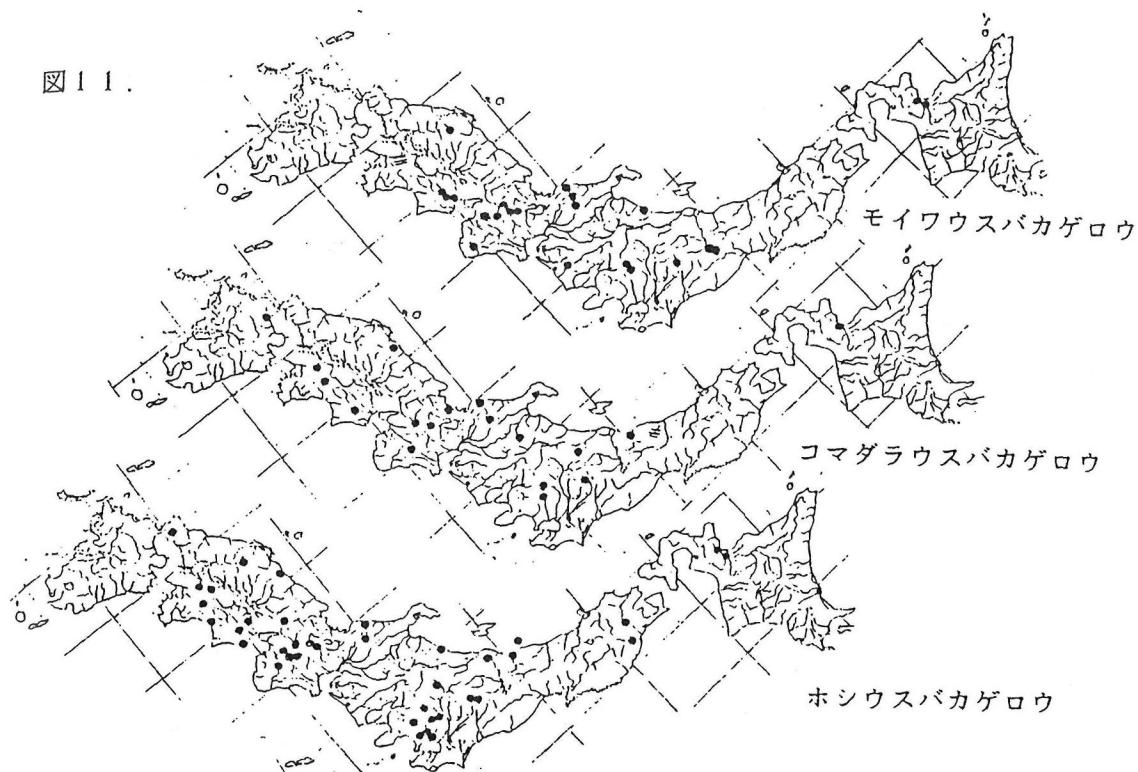
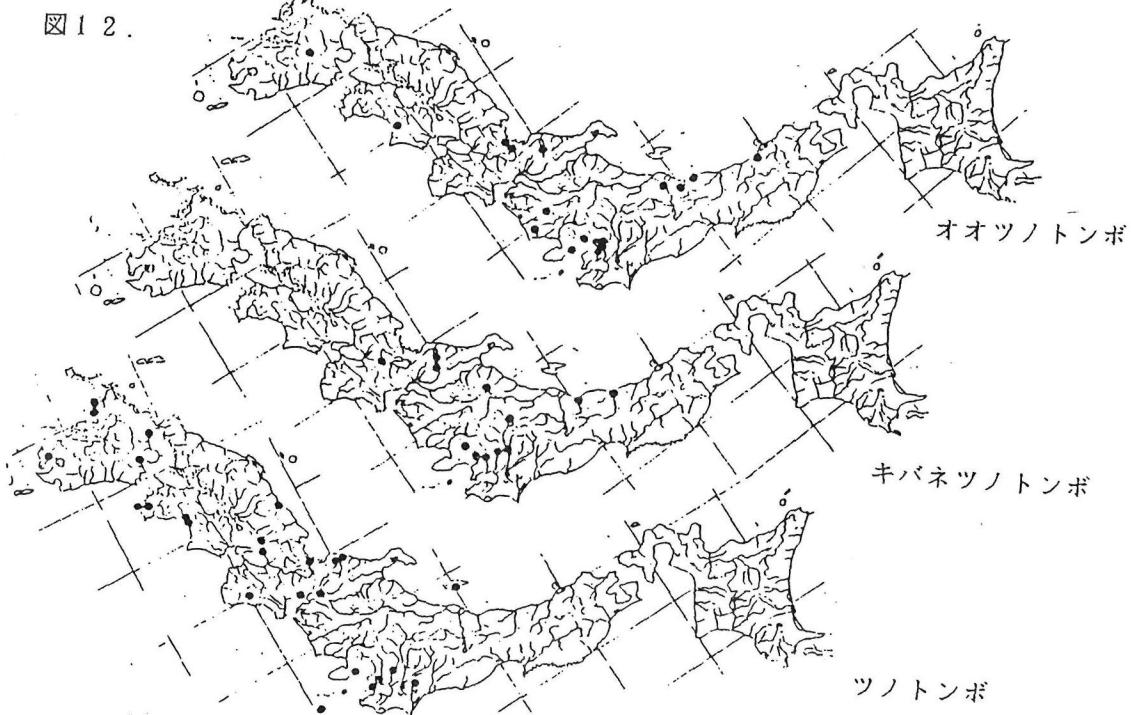


図12.



## 謝　　辞

本稿を記すにあたり、標本を提供していただいた氷室美芳、市川和夫、玉木長寿、岸一弘、碓井徹の各氏の御好意に対し厚く感謝する。

## 参考文献

- 日浦 勇 (1977) ウスバカゲロウ 1,2. *Nature Study* 23(8);5~7, 23(9);2~4.  
 石原 明 (1965) 脈翅目、原色昆虫大図鑑(Ⅲ). 北隆館.  
 Kuwayama,S.(1962) A revisional synopsis of the neuroptera in japan.  
*Pacific Insects* 4(2);325~412.  
 牧林 功 (1984) 埼玉県脈翅類ノート. 寄せ蛾記 43;556~560  
 長田 勝 (1985) 脈翅目、福井県昆虫目録. 福井県.  
 南部敏明(1981) その他の類、寄居町の自然 動物編. 寄居町教育委員会.  
 佐藤勝信(1981) 神奈川県のコオロギ、バッタ、カマキリ類その他について、  
     神奈川県昆虫調査報告書. 神奈川県.  
 菅野 徹 (1982) 会下谷の雑木林の生物相とその季節変化. 横浜市公害研究所.  
 寺山 守 (1982) 熊谷市産動物目録基礎資料.  
     立正大学北埼玉地域研究センター年報 別冊第1号.  
 塚口茂彦(1986) 脈翅目、板橋区昆虫類等実態調査. 東京都板橋区.

( まきばやし いさお 〒330 大宮市天沼町2-864 )

## トカラ列島の蛾

市川和夫

川名美佐男氏（大宮市在住、陸生貝類の研究者）は1985年夏にトカラ列島を訪れ、各種の動物を採集し友人達に提供された。その内のハチ類については南部敏明氏が本誌No.45に記録したが、筆者は蛾をいただいたので、採集者に深謝しつつその目録を作成することにした。

この島々での蛾の採集例は少ないため、採集品の内メイガ科に初記録種があるので、(初)としてその旨を明示した。採集データは次の通り。

トカラ列島 宝島、2~11-VII-1985 川名 美佐男（採）。

トカラ列島 悪石島、11~29-VII-1985 川名 美佐男（採）。

### PYRALIDAE メイガ科

1. *Scirpophaga excerptalis* (WALKER) シロオオメイガ 悪石島 1♂(初).
2. *Glyphodes bipunctalis* LEECH フタホシノメイガ 悪石島 1♂.
3. *Glyphodes litysalis* WALKER イカリモンノメイガ 宝島 1♂ 5-VII(初).
4. *Thliptoceras amamiala* MUNROE & MUTUURA ケブカキイロノメイガ 悪石島 1♂(初)
5. *Polygrammodes sabelialis* (GUENEE) チャモンキイロノメイガ 悪石島 1♂ (初).
6. *ENDOTRICHA THEONALIS* (WALKER) カバイロトガリメイガ 悪石島 3♀♀.

### GEOMETRIDAE シャクガ科

7. *Comibaena procumbaria* (PRYER) ヨツモンマエジロアオシャク 悪石島 1♀.
8. *Cleora repulsaria* (WALKER) フトスジエダシャク 悪石島 1♂.

### SPHINGIDAE スズメガ科

9. *Theretra oldenlandia* (FABRICIUS) セスジスズメ 悪石島 1♀.

### ARCTIIDAE ヒトリガ科

10. *Miltochrista pallida* (BREMER) ハガタキコケガ 悪石島 4♀♀(初).

### CTENUCHIDAE カノコガ科

11. *Amata germana* (FELDER & FELDER) キハダカノコ 悪石島 1♀ 1♂.

### NOCTUIDAE ヤガ科

12. *Spodoptera depravata* (BUTLER) スジキリヨトウ 悪石島 1♀.

13. *Maliattha signifera* (WARKER) ヒメネジロコヤガ 悪石島 1♂.  
 14. *Melapia japonica* (OGATA) クロスジユミモンクチバ 悪石島 1♀.  
 15. *Erebis ephesperis* (HUBNER) オオトモエ 宝島 1♀ 5-VI-1985.  
 16. *Evdocima salaminia* (FABRICIUS) キマエコノハ 宝島 1♀ 2-VI-1985.

以上その他、未同定の小蛾が1種1個体ある。

( いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町2-7-11 )

■■■■■■■■■■■■■■■■ 熊谷市大麻生河原の春の蝶 ■■■■■■■■■■■■■■■■

吉田文作

大麻生河原は荒川の河川敷で、現在埼玉県の公園事業として連日ブルトーザーがうなりをあげており、今年の秋にはゴルフ場として生まれ変わる予定である。かつてギンイチモンジセセリの宝庫であった場所も跡形もなく整地され、今年(1986年)はわずかに残された場所に細々と生き残っていた。

1986年に確認されたもの (調査は1985-V-3 大麻生河原)

ヒメウラナミジャノメ	多数	ツマキチョウ	3
ギンイチモンジセセリ	多数	モンシロチョウ	2
キタテハ	2	モンキチョウ	5
ツバメシジミ	5	キチョウ	2
ヤマトシジミ	5	スジグロシロチョウ	5
ベニシジミ	10		

1986年に確認されたもの (調査は1986-IV-30 大麻生河原)

ギンイチモンジセセリ	5	モンシロチョウ	8
キタテハ	2	キチョウ	3
ベニシジミ	10	スジグロシロチョウ	7
ヤマトシジミ	5	ツマキチョウ	6
ツバメシジミ	12	モンキチョウ	4

( よしだ ぶんさく 〒360 熊谷市三ヶ尻2849-1 )

## 中津川で採集した甲虫

草野智博

1985年8月10日、埼玉県中津川に於いて若干の甲虫類を採集しているので報告します。  
採集に協力してくださった、大塚俊彦氏に感謝します。

### 鞘翅目

- |              |   |
|--------------|---|
| (ハネカクシ科)     | オオヒラタハネカクシ 1ex.                                     |
|              | キオビハイイロハネカクシ 1ex.                                   |
| (クワガタムシ科)    | ミヤマクワガタ 1♀、コクワガタ 1♀<br>アカアシクワガタ 1♂小型 1♀. (3種とも灯火採集) |
| (オオキノコムシ科)   | カタモンオオキノコムシ 1ex.                                    |
|              | オオキノコムシ 5exs. (2種とも灯火採集)                            |
| (テントウムシダマシ科) | ルリテントウムシダマシ 3exs.                                   |
| (ゴミムシダマシ科)   | コブスジツノゴミムシ 8exs.<br>ヒメツノゴミムシダマシ 1ex.                |
|              | コマルキマワリ 1ex.  |
| (カミキリモドキ科)   | スジカミキリモドキ 2exs.                                     |
| (カミキリムシ科)    | ホソカミキリ 2exs.、ノコギリカミキリ 2exs.<br>トガリシロオビサビカミキリ 2exs.  |
|              | エゾサビカミキリ 1ex.、ビロードカミキリ 2exs.                        |
|              | クワカミキリ 1ex.、エゾトゲムネカミキリ 1ex.                         |
|              | ホソモモブトカミキリ 1ex. (以上8種 灯火採集)                         |
|              | ミヤマクロハナカミキリ 1ex.                                    |
|              | アカハナカミキリ 2exs.                                      |
|              | マルガタハナカミキリ 2exs.                                    |
|              | フタスジハナカミキリ 1ex. (以上 ノリウツギより得た)                      |
|              | ヨツスジハナカミキリ 3exs. (コアジサイより得た)                        |
|              | ヘリグロリンゴカミキリ 1ex.                                    |

(くさのともひろ 〒326 栃木県足利市山川町755)

## ウスバシロチョウ（ウスバアゲハ）の分布

吉田文作

ウスバシロチョウ（ウスバアゲハ）*Parnassus (Tadumia) glacialis* BUTLERは、埼玉県内の北・西部地域に広く分布しており、近年その範囲を広げているように思われる。筆者は1986年5月22日、比企・秩父・大里地方を車で一巡し、次の地区でウスバシロチョウを確認できたので報告しておきます。

比企郡都幾川村	大附	少ない
〃 小川町	上古寺	少ない
〃 "	腰越(栗山・赤木)	少ない
〃 "	笠山の中腹	少ない
秩父郡東秩父村	御堂	少ない
〃 "	奥沢(坊庭)	少ない
〃 "	坂本	少ない
〃 "	皆谷	少ない
〃 "	白石	多い
秩父郡皆野町	三沢(高府地・谷津・芳ノ入)	多い
〃 "	下田野(谷草・能林)	多い
〃 長瀬町	風布(植平・燕木)	多い
大里郡寄居町	釜伏山山頂	少ない
〃 "	風布	多い

大里郡寄居町において、ウスバシロチョウは以前に確認されなかった(寄居町史 資料集 寄居町の自然 動物編 未記録)が、今回風布や釜伏山頂で多数確認することができた。

なお今回の調査はたった1日で、車の通行可能な一部を巡回したにすぎず、今後さらに詳しい調査をしてみたい。なお、長瀬町風布から釜伏山頂にかけて次の蝶が確認された。

オナガアゲハ	クロアゲハ	ミヤマカラスアゲハ
カラスアゲハ	ダイミョウセセリ	ミヤマセセリ
アオバセセリ	クモガタヒヨウモン	サカハチチョウ
モンシロチョウ	ツマキチョウ	モンキチョウ
ルリシジミ	ベニシジミ	

( よしだ ぶんさく 画360 熊谷市三ヶ尻2849-1 )

## ゴマダラチョウに関する2、3のデータ

石澤直也

所沢で今冬越冬のゴマダラチョウの幼虫について調査したので、そのデータを報告する。

### 1. 頭幅について

対象となった幼虫は所沢市三ヶ島地区(早稲田大学建設予定地内B地区)及び山口地区を越冬地とするもので、個体数及び調査日は次のとおり。

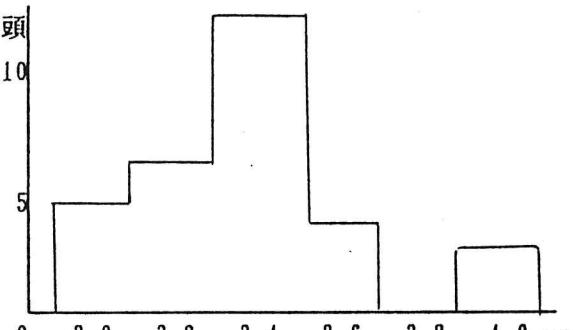
越冬地	調査個体数	調査日
三ヶ島地区(屋内確保)	10	1986-III-16
〃 (野外越冬)	11(内1頭は死亡個体)	1986-IV-12
山口地区(屋内確保)	8	1986-IV-20

頭幅については、各令期間中は変化せず、各令数の頭幅は幾何級数的に大きくなり、その比は昆虫によってほぼ一定であるといわれ、これをDyar's ruleと呼んでいる。一般には幼虫の大きさは体長と体幅(第4複節)を計測しているが、越冬初期と越冬後での計測値の差が大きい。そこで変化がすくない頭幅(角の根元の直後)を計測したところ、下のグラフ結果を得た。

最小値 3.0mm ~ 最大値 4.0mm  
最大値を除いた平均値 3.4mm

頭幅(4.0mm)が他から離れているが、これが5令越冬幼虫の数値かはわからない。ちなみに浦和市の1985年7、8月の平均気温は各25.7°C、27.4°Cと平年よりそれぞれ1.9°C、2.0°C高く、2カ月の積算した数値を日度数とすると、120.9°Cとなる。果たしてこれが5令越冬を可能にするものか、今後も継続して調査する必要がある。

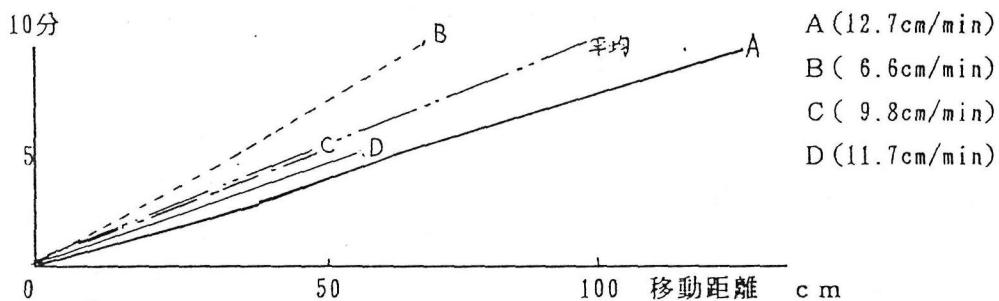
### 2. 越冬後の残存率について



三ヶ島地区の幼虫についてはB地区の湿地帯の北側の1本のエノキで1986年1月12日に29頭を確認し、内10頭を屋内越冬させるためにもちかえり、(上記1.の屋内確保分)、残り19頭についてはそのままにして置いた。4月13日に屋内確保分を返しに行ったとき調査したところ10頭の生存が確認でき、残存率は52.6%だった。調査範囲は両調査日ともエノキの周囲30cm位である。

### 3. 哺乳後の上昇速度について

4月13日に頭幅の計測をおこなっていたところ、一部の個体が哺乳しエノキの幹に取り付き、上昇を開始したので、その速度を計ってみた。計測開始は5:17p.m.(気温12.8°C)、計測個体数は4頭で、3分、5分、10分を目安に測定した。終了時は5:41p.m.(気温11.4°C)で平均速度は10cm/分だった。



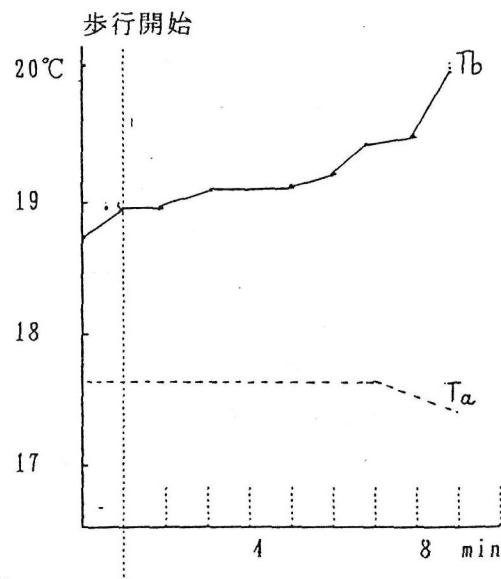
### 4. 哺乳後の幼虫の体温について

昆虫は変温動物であるが、以前から米国の学者の間で熱電対を用いてマルハナバチ、スズメガ、トンボ等の体温調節についての研究が盛んで、飛翔中は胸部体温が40°C近くにまで上昇し、また体温を下げる機構のあるものもあることが知られている。最近出版されたB.ハインリッヒの「ヤナギランの花咲く野辺で」を読み、小生も興味をひかれ、早速デジタル温度計と細い熱電対を購入し、ゴマダラチョウ幼虫で体温を計ってみた。

右のグラフは幼虫の体温( $T_b$ )、室内気温( $T_a$ )を計ったものである。使用した個体は、山口地区のもので、体長16.6mm、頭幅3.2mm、体幅4.2mm、熱電対のプローブを中心と後胸の間に深さ約2mm挿入した。計測は、プローブをセット後5分経過9:19p.mより開始し、幼虫の歩行によってプローブが外れるまでの9分間行った。(測定日1986-IV-15)

グラフから幼虫の胸部体温は静止時で1°C室内気温よりも高く、歩行開始とともに体温が上昇するのがわかる。

使用した温度計は、ジョンフレーク社製



1986年6月

寄せ蛾記47号

の52型2チャンネル・デジタル温度計で、幼虫の体温測定にはホスキンス社製K型 $\phi 0.05$  mmの熱電対を石川産業(三鷹市新川所在)でコネクターとセットしたもの、室内気温測定にはジョンフレーク社製の熱電対を使用した。

( いしづわ なおや 画359 所沢市山口 1644-15 )

■■■■■ モンシロチョウとスジグロシロチョウの産卵例 ■■■■■

巣瀬司

モンシロチョウとスジグロシロチョウの産卵を観察したので報告する。

(1) モンシロチョウ

1986年4月29日13時35分～13時39分、天候：晴れ。桶川市南2丁目の自宅の庭に繁茂しているオオアラセイトウの葉裏に1雌が1卵ずつ、合計6卵を産卵。オオアラセイトウは満開で、「日なた」に生育していた。

(2) スジグロシロチョウ

1986年4月27日15時10分～15時14分、天候：薄曇り。浦和市秋ヶ瀬の林縁に生えていたイヌガラシの葉裏に1雌が1卵ずつ、合計4卵を産卵。産卵の合間に、イヌガラシと混生していたイネ科植物などの葉にしばしば止まり、腹部を軽く曲げるが産卵はせず。

なお、同日(4月27日)11時05分、天候：薄曇り。浦和市田島ヶ原でキタテハが高さ約5cmのカナムグラの葉裏に、1卵を産卵した。

(すのせ つかさ 〒363 桶川市南2丁目6-13)

■■■■■ 「アシナガバチの巣」の情報を求めています ■■■■■

巣瀬司

「金曜セミナー」の席でもお願いしましたが、「アシナガバチの巣」の情報を求めています。皆様の自宅の近くで、また県内の旅行先でアシナガバチの巣を一つでも見付けましたら、巣のあった具体的な場所をお知らせください。「環境の指標」としてアシナガバチの巣を利用するつもりですので、求めているのは「9月下旬から12月中旬までの廃巣」です。調査項目は：

- (1)環境(市街地、準市街地、非市街地など)によるアシナガバチの種構成の違い。
- (2)環境による同種内の育房数の違い。
- (3)環境による寄生蜂、カザリバガの有無。
- (4)種ごとの営巣場所と営巣位置(高さ、樹種)などです。

ハタラキバチが巣にいるあいだ(9月中旬まで)の採集は危険ですし、データが不十分になりますので、巣は採らないでください。

廃巣を採ってくださる場合は(4)の項目と環境だけは記録しておいてください。巣のあった具体的な場所をお知らせしていただければ、当方自身が採集に出掛けるつもりです。連絡先は夜間：☎ 0487-73-1911 です。宜しくお願ひします。

(すのせ つかさ 〒363 桶川市南2丁目6-13)

寄せ蛾記 47号 目 次

牧林 功	：埼玉県の脈翅類・I	664
市川 和夫	：トカラ列島の蛾	674
吉田 文作	：熊谷市大麻生河原の春の蝶	675
草野 智博	：中津川で採集した甲虫	676
吉田 文作	：ウスバシロチョウ(ウスバアゲハ)の分布	677
石澤 直也	：ゴマダラチョウに関する2、3のデータ	678
	：総会の報告	680
巣瀬 司	：モンシロチョウとスジグロチョウの産卵例	681
巣瀬 司	：「アシナガバチの巣」の情報を求めています	681
巣瀬 司	：「シラサギ記念博物館」からのお願い	682
(市川 和夫)	：文献紹介	683
	：昭和61年度 宿泊談話会参加者大募集	684
	：金曜セミナーの報告	685
	：会報	686
	：編集後記	678